５. 令和５年度　学校評価報告書（実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 21 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①専門性を追究した教育活動を充実させる。 ②商業と工業の連携による特色ある教育活動を実践する。 ③学力及び技術技能の基礎力を確実に定着させる。 ④学習指導方法の改善を推進する。	①②③基礎学力の定着を図るとともに、共通教科及び専門教科の発展的学習を充実させ、上級の資格取得を目指す。 ③スタディサプリの活用による基礎学力の定着及び家庭学習の習慣化を図る。 ④「主体的・対話的で深い学び」の実践と ICT 機器の活用を推進する。	①②③スタディサプリを活用するなどして中学校までの基礎学力の底上げを図り、専門教育の学びにつなげていくとともに、資格取得の向上を図る。 ④「主体的・対話的で深い学び」を推進するために ICT 機器を活用した授業改善を行う。	①②学校全体としてスタディサプリの活用を推進し、生徒を支援する体制を構築できたか。また、資格取得率の向上を達成できたか。 ③動画視聴時間ゼロの生徒をなくし、各教科から出された課題が全て提出されているか。 ④生徒が一人一台端末を活用し、毎日学習活動に取り組んでいるか。	①②③スタディサプリの課題配信を定常的に実施するとともに、取組状況をチェックし、取組の甘い生徒には指導を行って改善につなげた。また、資格取得を支援し、電気工事士二種 16 名、一種４名の合格や、危険物甲種、IT パスポートや普通旋盤技能士など、上位資格の合格者が大幅に増加した。 ④スタディサプリや授業などで、端末の活用はすすんでいる。	③配信課題への取組状況は向上したが、動画の視聴状況を改善する必要がある。 ①②専門科目におけるスタディサプリの活用について、今後も研究を重ねる必要がある。	①②スタディサプリの活用に向けた指導において成果を出している。また、資格取得率を向上させていることも評価できる。 ②ICT 機器の活用をさらにすすめ、これからの時代に社会に出ても通用する人材を育ててほしい。	①②スタディサプリの配信課題には取り組んでいるが、動画視聴など資質・能力の向上に向けた積極的な取組をすすめる必要がある。 ④一人一台端末の活用はすすんでいるが、さらなる授業改善につなげていく必要がある。	①③スタディサプリへの取組をさらにすすめ、動画視聴の重要性を生徒に伝えるとともに、指導・支援の必要な生徒に対しては個別に対応する必要がある。 ④教職員の ICT 活用能力やアプリの利用方法に関するスキルを高めていき、さらなる授業改善につなげる。
2	生徒指導 ・支援	①基本的生活習慣の確立を図る。 ②社会人基礎力と豊かな人間性を育む。 ③主体性を育み自立した人間の育成を図る。 ④教育相談体制の充実を図る。 ⑤学校行事や特別活動及び部活動の活性化を図る。	①②基本的生活習慣を確立するとともに、自己肯定感を育む。 ④多様な生徒に対応するため、ＳＣ及びＳＳＷを活用し外部機関との連携を図るとともに、校内組織を充実させる。 ⑤部活動加入率の向上を図る。	①②生徒会、保護者及び各種機関と連携した指導を行い、自己肯定感の涵養につなげる。 ④生徒情報の共有を徹底するとともに、SC、SSW や外部機関等と連携し、ケース会議等の教育相談体制を整備して生徒支援を充実させる。 ⑤入学当初の部活動紹介等の企画や部活動支援体制の整備等により、加入率の向上を目指す。	①②組織的・継続的な指導により、次の事項が達成できたか。 ○挨拶をする生徒が増加したか。遅刻防止指導を年 5 回実施し、遅刻の回数が減少したか。 ○服装･頭髪指導対象者が減少したか。 ④本校の教育相談体制を生徒及び保護者等に周知し、教育相談の活用をすすめるとともに、必要に応じてケース会議等を開催するなどして支援体制を整備できたか。 ⑤部活動加入率が 50%を超えたか。	①②朝の立ち番や交通安全委員の生徒の声掛けなどにより、挨拶や交通ルールを遵守する意識等の社会性が向上した。身だしなみ指導も昨年の 131 件から 76 件に減少した。 ④SC 及び SSW の来校回数の増加により教育相談回数が増加し、支援の必要な生徒に必要なカウンセリング等を行うことができた。また、その情報共有により、支援体制の整備もすすんでいる。	①②各指導により全体としては生徒の社会性が向上しているが、生徒の中にはあまり指導の効果があらわれない者もいる。そうした生徒への指導を家庭ともさらに連携しながら取り組む必要がある。 ④本校における整備された教育相談体制を生徒・保護者に周知していくとともに、サポートドック等も活用し相談しやすい環境づくりをすすめる。	①②昨年度より近隣からの苦情件数や指導件数が減少していることは評価できる。 ④教育相談体制が整備される中で、個々の生徒に必要な支援をしてほしい。 ⑤入学する生徒の状況にもよると思うが、部活動加入率を高める工夫をし、商工をより活性化してほしい。	①②家庭や地域とも連携し、生徒の規範意識を高めるとともに、社会人としてのルールやマナーを守る意識を高める必要がある。 ④教育相談体制の整備を生徒・保護者等に周知していくとともに、サポートドック等の活用を推進する必要がある。 ⑤部活動支援体制の整備をすすめるとともに、生徒の自主的・自発的行動をサポートしていく必要がある。	①②粘り強く生徒に呼びかけ、生徒の自覚を促すような指導を徹底する。 ③家庭との連携を行うとともに、必要に応じて外部と連携し、生徒の課題解決に向けた支援をすすめる。 ⑤部活動加入の意義を周知し、部活動加入率が 45%であったため 50%を超えるよう学校づくりをすすめる。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 21 日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①実際的・体験的学習の機会拡大と充実を図る。 ②勤労観や公共心、社会奉仕の精神を涵養する。 ③進路相談体制の充実を図る。	①学年段階における外部人材を活用した進路説明会等の実施等により、キャリア教育の充実を図る。 ②進路未決定者をゼロにする。 ③進学・就職にかかる事故防止を徹底する。	①進路ガイダンスの内容を精査して進路情報を生徒に提供するとともに、外部講師を積極的に活用したキャリア教育を実践する。 ②欠席や学業不振等が原因で進路活動にマイナスの影響が出ないよう、担任等と協力しながら指導・支援する。 ③複数チェック体制を厳守する。	①進路決定に有益な情報を提供すること等により、進路未定者をゼロにすることができたか。 ②欠席や学業不振等により、進路活動にマイナスの影響を受ける生徒をゼロにすることができたか。 ③進路にかかる事故をゼロにすることができたか。	①アプリ「HANDY 進路指導室」の活用をさらにすすめ、３年生だけでなく２年生にも求人票を閲覧できる環境を整えた。さらに外部講師を活用した進路ガイダンスを全学年で計 14 回実施し、充実したキャリア教育を実践した。 ②クラス担当と連携した対応等により、昨年度より学業不振等で進路活動にマイナスの影響を受ける生徒は減少した。 ③複数チェック体制を機能させ、進路にかかる事故をゼロにすることができた。	①②諸事情によるものを除き、進路未定者をゼロにすることができた。一方、安易に進路決定をする生徒も散見されるため、キャリ教育を精査し、進路に関する生徒の主体的な態度を育成する必要がある。 ③事故防止に向けては、進路にかかる書類の作成だけでなく、その他の手続等においても生徒の指導・支援を適切に行う必要がある。	①計画的な進路指導ができている。進路ガイダンスは生徒にとって必要なことなので続けてほしい。また、1度の就職試験に失敗した生徒への支援も続けてほしい。２社目として受験してきた生徒を積極的に採用する企業があることも知っておいてほしい。	①②計画的なキャリア教育を実践し、主体的に進路活動を行う生徒を育むことが必要である。 ③進路にかかる事故ゼロを継続していく必要がある。	①②より早い段階から進路について考える場面の設定を工夫し、生徒の主体的な進路活動を支援する体制を整備する。 ②３年次生徒の進路意識を高め、早い時期から進路活動に取り組む指導を行う。 ③継続して、確実な事務処理及び点検体制を実践する。
4	地域等との協働	①学校運営協議会制度を活用した、地域との協働を図る。 ②広報活動を充実させ情報の発信を推進する。	①連携協定等を活用し、外部講師による実践的教育を充実させるとともに、地域や OB 等を活用した教育活動を実践する。 ②ホームページによるタイムリーな情報発信を行う。 ②中学生及びその保護者に向け、本校の魅力及び特色をさまざまな機会を活用して発信する。	①生徒の学びに連携協定を活用するとともに、地域や OB、連携企業と協働する。 ②ホームページの更新をこまめに行うだけでなく、新たにメールマガジンも配信するなど広報活動を充実させる。 ②近隣中学校の生徒及び保護者に加え、中学校教職員への PR 活動を充実させる。	①生徒の学びに連携校、地域や OB が関わり、生徒の成長を促すことができたか。 ②入学志願者が、募集定員を超えることができたか。	①両科において、企業や上級学校との連携が進み、教育活動に生かされている。また、感染症対策の緩和にともない地域との交流も再開し、連携が深まっている。 ②昨年にも増してホームページや公式インスタグラムのう更新をこまめに行うことできた。また、中学生向けのメールマガジも配信し、本校の魅力を発信することができた。 ②パンフレットに改良を加えたほか、中学生向けの学校説明会も回数・参加人数を増やし、充実した広報活動を展開した。	①企業や上級学校及び地域との連携をさらにすすめ、本校の教育活動を充実させる必要がある。 ②ホームページの更新及びより魅力的なデザインの追究に加え、メールマガジンや公式インスタグラムの活用等広報活動のさらなる充実を図る必要がある。	①地域のイベントに商工高校として生徒が参加している姿がとっても良かった。行事等の手伝いに感謝する。 ②③ホームページの更新の頻度が他の学校より圧倒的に多いことが良い。また、メールマガジンの配信も読みやすく楽しい。	①今後も地域や企業・上級学校との連携をすすめ、本校の特色ある教育活動に生かす必要がある。 ②③ホームページや SNS のこまめな更新により本校の魅力を伝えることができた。SNS での個人情報の利用にさらに注意して活用していくことが必要である。	①連携する場を整備し生徒の成長につなげる学びの場を増やすとともに、地域との協働も充実させる。 ②本校の魅力をホームページや SNS にて発信するなど広報活動を充実させて、入学志願者の増加につなげる。
5	学校管理 学校運営	①ミッションに沿った学校経営の推進を追究する。 ②安全安心な学習環境を維持構築する。 ③教育公務員としての規範意識を醸成するとともに、風通しの良い職場環境を構築する 。 ④働き方改革の視点に立ち長時間労働の解消に取り組む。	①商業教育と工業教育の連携強化により、職業人の育成を目指す。 ②スチューデントファーストの視点に立った教育活動を実践する。 ③事故・不祥事防止を徹底する。 ④職場環境や業務内容を見直し、働き方改革に取り組む。	①両科の協働的な学習活動を通して、相互理解を深めるとともに、職業人の育成につなげる。 ②地域の協力も得ながら、生徒が安心安全に学校生活を送ることができる環境をさらに整備する。 ④Teams の活用をさらにすすめ、会議時間の削減やペーパーレス化を目指すとともに、業務の効率化につなげる。	①生徒が商業と工業のそれぞれの教育に対する理解を深め、職業人として成長できたか。 ②安心安全な学習環境の維持構築が実現できたか。 ④Teams の活用等により会議時間が削減できたか。	①共通選択科目の開講や合同課題研究発表会等により両科の学びを共有し、相互理解を深めた。 ②防災備蓄品の現物照合や危機管理マニュアルの改訂作業等の中で、安心安全な学習環境の整備をすすめた。また、大地震を想定した防災訓練を実施した。 ④Teams の活用などにより会議のペーパーレス化や情報の共有を推進した結果、会議時間の削減を実現した。	①両科の相互理解だけでなく、協働的な学びの場をさらに追究する必要がある。 ②災害に対する備えを常に意識し、備蓄品等の整備だけでなく生徒へのより効果的な指導を検討していく必要がある。 ④今後もより効率的な業務運営に向けて、業務の見直しをすすめるとともに職員の意識改革を図る必要がある。	①課題研究発表会のプレゼン資料の質が高いことに驚かされた。両科の強みが出た発表会であった。 ④Teams の活用により会議等の短縮ができていることは評価できる。	①両科の協働的な学習活動をさらに追究するとともに、職業人の育成につなげる必要がある。 ②時代に応じた防災マニュアルの改訂作業をすすめ、災害に備えた学校づくりを整備する必要がある。 ④ペーパーレス化をどの程度行えているかの見える化をすすめることで、職員の意識改革にむすびつける必要がある。	①両科の協働的な学習活動の追究をすすめ、職業人の育成につなげる。 ②いつどんなときに災害が起きても、対応できるよう校内体制を整備する。 ④Teams の活用を中心とした効率的な業務の見直しと、職員の業務効率に対する意識改革をすすめる。